すべての原発いますぐなくそう！全国会議

NAZEN 通信

第120号
2023.4.11発行
カンパ50円

発行：NAZEN 事務局
東京都杉並区天沼 2-3-7 さかいビル 2A
nazen.info@gmail.com

「GX 束ね法案」は核戦争への道だ
広島 G7＝戦争会議に怒りを

みなさん。国会では原発政策大転換をかけた「GX 推進法案」と「GX 脱炭素電源束ね法案」の成立が狙われる。20 兆円の国債発行と脱炭素投資で「次世代原発」研究が進むと言われる。さらに束ね法案は、60 年を超えた原発稼働だけでなく、「原子力の憲法」・原子力基本法の改悪が含まれています。2012 年に「平和利用に限る」とする目的に「我が国の安全保障に資する」と加え核武装・軍事利用へ改悪。今回はさらに、原子力産業の支援を「国の責務」として不可逆的な推進を盛り込み、核燃料の再処理についても「着実な実施を図る」としてプルトニウム抽出へ固執しています。束ね法案という形で「環境問題・脱炭素」とセットにし反対しにくくした悪辣な原発推進・核武装法案だ！

こうした動きの中で広島 G7 サミットが 5 月 18〜20 日に開催されようとしています。ウクライナ戦争を焚きつける戦争屋が集まる。岸田首相自らウクライナを電撃訪問し、武器供与の規制を緩和しこの戦争に参戦していく。そして広島の名で被爆者の怒りを抑えて核武装へ向かう。それは広島・長崎の被爆者が苦しんできた被曝と健康被害、さらには福島の苦しみをも否定するものです。前段の 4 月札幌エネルギー・環境サミットでは原子力推進に加え、汚染水の海洋投棄を「歓迎する」なる取りまとめが狙われ、脱原発を完了したドイツはこのまとめに反発。米欧日が中国を取り合い、「脱炭素」を看板にした日本の核武装をめぐってテーブルの下で蹴り合う戦争屋の会議。汚染水放出に「追加調査必要なし」とお墨つきを出した IAEA に頼っても共同声明がまとまるかは不透明です。世界の仲間と連帯した行動で、サミットをぶっ飛ばそう。ウクライナ戦争即時停戦！　日本はウクライナ・中国へ参戦するな！　汚染水海洋投棄、核武装を許すな！

さようなら原発に 4700 人（3 月 21 日東京・代々木）

《もくじ》

◆ 3•11 反原発福島行動’23 の発言から　福島県内からの発言 … 2 ページ
◆ 5•18 〜 20 G7 広島サミット＝戦争会議粉砕を　8・ 6 ヒロシマ大行動　保科 … 3 ページ
◆ 3•15 小児甲状腺がん裁判　第 5 回口頭弁論の意見陳述より … 4 〜 5 ページ
◆ GX 束ね法案・ GX 推進法を廃案に … 6 ページ
◆原発トピックス　一ヶ月のできごとまとめ … 7 ページ
◆スケジュールなど … 8 ページ

3•11 反原発福島行動’23　福島県内の発言から

原発政策の大転換を許さない　岸田を倒して責任とらせる

◇1 人ひとりが原発と闘っている

全国農民会議共同代表・鈴木光一郎さん

本宮で酪農をやっています。３・１１は晴天の霹靂（へきれき）でした。12 年経ちますが、野生の山菜の線量データが先日回ってきました。ケノコ、ふきのとう、わらびは売ってはいけません、となっていた。これは国策のなれの果てなのです。地元の反対を押し切って原発を強行しました。その果てが、日本の国土を山野を蹂躙する放射能の現実。野菜とか、徐々に放射線量は下がったのは、一人ひとりが血のにじむ努力をしてようやくここまできているんです。福島の人間は怒りが足りないと言われますが、黙々と血のにじむような努力で原発と闘っている。

原発事故は誰の責任なのか。この国策の責任は国が負うべきなんです。

私は農業が大好きでやっています。常に線量がどのくらいあるか、放射能汚染のことが頭にこびり付いている。これが福島県に住むわれわれの経験なのです。ウクライナのジャボリージャ原発を考えてみたときに、原発を再稼働するなど無謀なことだ。岸田は間違っている。原発政策を粉砕しよう。私たち福島はその最先頭に立って頑張る。

◇原発再稼働に向かう岸田倒して裁く

浜通りの酪農家

震災から 12 年が経ちましたが、福島県内では春の山菜、山のキノコは食べられません。この原発事故を起こした一切の責任を誰も取っていない。われわれの手で原発再稼働に向かう岸田を倒すことによってのみ敵を裁くことができると思います。

牛肉の世界では、福島県産と言うだけで値段が下げられている現状です。畜産危機、酪農危機が叫ばれている。２月に牛 40 頭を飼育していた農家が廃業するという話がありました。福島のみならず全国の酪農家、畜産農家は資材高、飼料高の中で、厳しい状況にあるこうした中で福島の農民は、三里塚、沖縄、そして全国の労働者学生のみなさんと連帯し最後まで闘い続ける。

◇「1 人も亡くなっていない」と言う政治家は許せない　中通りからの参加者

福島県は、広島・長崎に続く核の犠牲者になりました。原発事故で一人も亡くなっていない、トリチウム処理水を飲んでも健康に影響はないといっている副総理。いまだに福島県では、原発事故の犠牲があります。私の裏山に竹の子が出ますが、145 ベクレルあります。退職する前は札幌に居ましたが、１本千円もしました。今では、人にあげることも売ることもできません。

18 歳未満で甲状腺異常を訴えている人が、福島県は 100 万人当たり７～800 人居るという話を聞いた。全国平均では、２人位しか居ないそうです。しかし、政府は一切原発事故との因果関係はないと、補償しようとはしていません。日本の行政は、自分で推進して作った原発に対して責任を取ろうとしていません。全国の仲間に、同じ福島県民のような苦労は二度とさせてはいけない。二度と原発事故は起こしてはいけない。そのために私たち福島県民は諦めることなく今後も闘い抜いていきたいと思います。全国でもっと広げていきたい。

5・18～20 G7広島サミット＝戦争会議粉砕を広島は福島・沖縄と連帯し闘う

8・6ヒロシマ大行動　保科衣羽

G7広島サミット目前の広島で何が起こっているか。ひとつには、異様なサミット賛美です。平和の催しであるかのごとく折り鶴のロゴマークを使い、子どもたちをも動員する大宣伝がおこなわれています。自治体労働者はサミット関係の部署に動員され、開催期間中の道路の通行規制にくわえて会場周辺の飲食店に対し営業自粛要請がされています。協力を強制するやりかたは戦時体制そのものです。

もうひとつが、反戦反核運動つぶしです。アメリカを基軸とする帝国主義体制が自らの延命をかけて核戦争を準備している今、広島の怒りを抑え込むことは彼らにとって必要不可欠なことです。広島で戦争会議を開き、次の核戦争に広島がお墨付きを与えた形に持ち込もうとしているのです。

2月27日には、広島湾で初めての米海軍と海上自衛隊の共同訓練が行われ、8・6ヒロシマ大行動として呉の自衛隊に申し入れました。

自治労広島市は大会スローガンから「反核・脱原発」「非正規職の組織化」を下ろし、反対した執行委員を組合から排除しようとしています。自治労の私たちの仲間はこれに立ち向かい、たたかう組合の再生をめざして、非正規職の組織化に取り組んでいます。

◆広島・長崎、ビキニ、福島の怒り圧殺が狙い

広島市教育委員会は今年度の平和教育の教材から『はだしのゲン』と「第五福竜丸」を排除。『はだしのゲン』に描かれているのは、原爆のおそろしさだけではありません。戦争に反対する者を弾圧し、差別と暴力で民衆を分断して翼賛体制に組み込んでいく手口。天皇制のペテン。戦争や支配階級に対する民衆の激しい怒り。戦争の真実を克明に描き、時代を超えて読者の胸に「戦争はいけない」という思いを揺り起こす作品です。

「第五福竜丸」は、乗組員の命をむしばんだ放射線障害、汚染された魚が食卓にのぼることへの不安と怒りから杉並で始まった水爆禁止署名に発展し、世界で6億6,000万筆以上を集め、広島での第一回原水禁世界大会へとつながりました。民衆の怒りが、戦後の核支配体制をゆるがす大きな運動を作ったのです。

4月15、16日には札幌市でG7気候・エネルギー・環境相の会合が開催され、共同声明が出される予定です。議長国日本は、福島の汚染水放出や汚染土の再利用について「歓迎する」との表現を盛り込もうとしています。しかし新自由主義政策で労働者の暮らしも未来も地球環境も破壊し、しゃぶり尽くしてきたのがG7です。汚染水放出への民衆の怒りをさらに組織していきましょう。

◆沖縄と連帯し戦争会議粉砕を

4月2日には、宮古島で反戦を闘う清水早子さんをお招きし「沖縄・琉球弧の島々を戦場にするな」と題する講演会とデモをおこないました。ビラを受け取り興味を持った方、何年も活動をお休みしていた仲間など続々と結集し、多くの人にとって戦争が我が事になっていると感じました。広島は沖縄に強く連帯し、東アジアを再び戦場にしようとしている日米と対決し、米軍基地撤去まで闘い抜くことを決意した集会とデモになりました。

大増税と大軍拡を強行する岸田がウクライナを訪問し戦争当事者の顔をあらわにしている今、広島の労働者市民もG7サミットが平和のためのものなどではないと見破り始めています。イギリスが劣化ウラン弾をウクライナに供与することを弾劾しもせず、被爆地ヒロシマを利用してG7サミットをやる岸田を絶対にゆるすことはできません。街頭やデモで「G7広島サミットは戦争会議」「G7こそが戦争当事者」と訴え続けてきましたが、街頭の反応は日に日に濃くなっています。あらゆる地域、職場、キャンパスでG7サミットのペテンを暴露し、5月19日のサミット粉砕闘争へ総力で攻めのぼりましょう。

子ども甲状腺裁判　3•15 第５回口頭弁論　原告意見陳述から

「定期的な検査のたび不安でいっぱいになる」

第５回口頭弁論の原告意見陳述を抜粋して掲載します。弁護団は「UNSCEAR が線量を 100 分の１に過小評価した」等、資料とともに指摘（事務局）。

私は震災当時、高校１年生でした。家庭科の授業中に地震が発生し、妊婦体験の道具を身につけながら地震が過ぎるのを待っていました。食器棚を押さえるほど大きい揺れだったことを覚えています。自宅に帰ったのは 17 時頃でした。１階の壁にはヒビが入り、家具は倒れ本棚にあった本は散乱していました。震災の被害があまりにも大きく恐怖を感じました。テレビをつけ、津波が建物や車を押し流していたシーンが記憶に残っています。

翌日、原発が爆発したニュースを見て、母に言われていつでも避難できるよう準備を始めました。母が運転する車で食料調達をしましたが、どこも品薄でいくつものスーパーを回りました。バッグに非常食や服を詰めたりして慌ただしい生活でした。でも私自身は自分の地域は大丈夫だろうと思っていました。

震災で学校は休みになり、そのまま春休みに入りました。カラオケやボウリングなど外に出かける頻度も徐々に増えていきました。当時バンド活動に力を入れていたので、自転車でスタジオに通うこともありました。友達と自転車で出かけることについて、母は心配するので家族には黙って出かけていました。

当時は放射能のことは全く気にしていませんでした。原発事故前から牛乳が好きだったので、特に気にせず毎日 500ml から１リットルくらい飲み続けていました。地元さんの牛乳が一時的に出荷制限になり飲めない時期があって悲しかったのを覚えています。

震災から３年が経った大学１年の頃に一斉検査で超音波健診を受けました。会場は結婚式場でした。すぐに終わると思っていたのですが、他の人よりも３、４倍長く感じられました。検査技師の女性は機械を使って何度も同じ箇所を往復させ、う〜んと言いながら首を傾けていて、不安な気持ちになりました。

後日、超音波検診の結果が届きました。再検診を受けろというもの。この時点で自分の体に何か良くないことが起きているのではと感じていました。再検診は自宅から遠く離れた福島県立医大で受けました。母の運転する車で向かいました。検査をした甲状腺センターの廊下に並んでいる椅子には多くの患者が待機していて、座りきれず立って待っている人もいました。自分の検査時間まで長くて退屈でした。

再検査では穿刺細胞診をやりました。甲状腺ガンの疑いになる細胞を吸い取り悪性かどうかを判断する検査です。甲状腺のある喉元に麻酔することなく細長い針を刺されました針が喉を貫通したらどうしよう、変なところに刺さないだろうかと通常の注射とは違う怖さを感じていました。１回目はうまくとることができず、「あれ？」と言いながら再び針を刺されました。強い痛みと怖さから下手くそだな、もうやめてほしいと思っていました２回目もうまくとることができませんでした。痛みと不快感で涙が出ました。結局３回も刺されることになりました。

１ヶ月後、再度病院を訪れると、医者から甲状腺乳頭ガンと宣告されました。まさか 20 歳でガン宣告されるとは思っていませんでした。聞いた瞬間、もしかして死ぬのかという気持ちになりました。医者からは「現状は身体に影響することはありません。ただし今後ガンが大きくなる可能性があります。その場合投薬か手術で治療することになります」と言われました。母が診察室に残って医者と話している間、診察室の外ですぐに乳頭ガンについてスマホで調べました。【乳頭ガン　死亡率】で検索し、「すぐに死に至るガンではない」ことを、【乳頭ガン　手術】で検索し「手術の成功率も高い」ことを知りました。これらの検索結果を見てほっと胸をなでおろしたのを覚えています。この日のガンの大きさは 9.4mm。まだ 10mm にも満たないため、

すぐには手術をせず経過観察になりました。周りを心配させないように家族以外にはガンになったことは話さないようにしていました。

ガンだと宣告されてから半年に1〜2回経過観察をするために通院を続けました。経過観察のたびに乳頭ガンが少しずつ大きくなり、自分の体の中で大きくなっていくガンに気持ち悪さを感じていました。そして2年ほど経った診察日にリンパ節に転移するかもしれないと診断されました。ガンは確実に大きくなっていました。医者には投薬治療する選択肢も与えられましたが、薬で完治するのを待つより転移する可能性も考慮し一刻も早くガンを取り除きたいという気持ちから手術をすることを選びました。社会人になってからでは時間は取れないと思い、大学4年生の夏休みに手術をすることを決意しました。

穿刺細胞診での不信感もあり、母と相談して手術は東京の専門病院で行うことにしました。甲状腺ガンの大きさは11mmになっていました。入院期間は1週間程度でした。手術前は緊張と不安でいっぱいでした。「手術が失敗したら…」、「後遺症が残ったら…」などネガティブな考えばかり浮かんでいましたそんな不安からSNSで初めてガンであること、これから手術を受けることを発言しました。励ましの言葉をもらったり、たまたま東京にいた友人がお見舞いに来てくれたおかげで、少しだけ心を落ち着かせることができました。

手術は全身麻酔で意識を失っている間に終わっていました。手術台で目が覚めた時に、「無事成功しましたよ」と言われた時は朦朧としつつも感動したのを覚えています。

手術直後は麻酔が効いていたこともあり、痛みは全くありませんでした。問題はその日の夜中でした。麻酔が切れた途端、あまりの痛みにナースコールを押して追加の鎮痛剤を投与してもらいました。一人では起き上がることやトイレに行くこともできませんでした痛みでまともにご飯を食べることもできませんでした。退院後1週間は鎮痛剤なしでご飯は食べるのは困難でした。手術痕の痛みは1ヶ月ほど続き、しばらくは手術痕が日光に当たらないように気をつける必要がありました。残念ながら今でも手術痕はくっきりと残っています。傷に関して引かれるのが面倒なので極力手術痕が見えないような服を着るようになりました。

手術後も年に1回くらい検査を受けるように言われており、定期的に病院で検査をしています。再発することを考えると気分が落ち込んでしまうので、普段は考えないようにしていますが、病院に行って検査結果を聞くまではどうしても不安でいっぱいになります。

最後に私が提訴することを決めた経緯についてお話しします。大学を卒業し就職で上京した後、原発事故後に甲状腺ガンになった人たちの集まりに参加する機会がありました。自分は甲状腺の半分を切除するだけで済みましたが、中には全摘出して薬を飲み続けている人、これから手術を受ける人、ガンになった人の親御さんなど様々なお話を聞くことができました。この時まで自分以外の甲状腺ガンになっている人と直接お話をすることはありませんでした。そして自分のように元気ではなく、体調が良くなかったり落ち込んでふさぎ込んでいる人もいることに同情しましたその過程で原発が原因である可能性があることを知りました。

今回この裁判に参加した理由は、原発事故後、甲状腺ガンで苦しんでいる人たちの手助けができればと思ったからです。裁判をすることを決めて他の原告の皆さんと出会い、そのお話も聞いて自分と同じ気持ちや自分より辛い気持ちを背負っている人がいることを知ることができました。正直なところ、この甲状腺ガンが原発による放射線の影響を受けているのか私には分かりません。様々な情報が飛び交っていて判断が難しいと思っていますですが可能性がゼロではないからこそ、この場で発言しています。裁判の結果がどうであれ裁判官の皆様には原告が納得できる結論を出していただきたいと思っています。

岸田の原子力政策の大転換 「GX 脱炭素電源法案」許すな！

23 年 2 月「GX 実現に向けた基本方針」が閣議決定され「原発の最大限活用」が正式に政府方針とされた。3 月 30 日「GX 脱炭素電源法案 」として国会に出され審議されている。

22 年エネルギー基本計画では「米中対立などによる国際的な経済/エネルギー安全保障における緊張感のたかまり」として「原子力政策の再構築」が強力に打ち出された。

〇戦争会議＝G7 ヒロシマサミット

G7 参加国で仏・米・英は核兵器保有国、伊・独は米の核兵器を国内に保管し NATO の決定で核攻撃ができる部隊を有している。カナダは NATO 加盟国で「NATO は核同盟であり続ける」と公言する。世界戦争・核戦争が現実に始まり、岸田首相はウクライナ訪問で「参戦国」へ踏み込み、議長国として戦争へ急激に舵を切ろうとしている。GX 束ね法案は「原発推進・核武装・戦争」法だ。

〇「運転期間原則 40 年・最長 60 年」を削除

正式名称「脱炭素社会の実現に向けた電気供給体制の確立を図るための電気事業法の一部を改正する法律案」は原子力基本法・電気事業法・原子炉等規制法・使用済燃料再処理法・再生可能エネルギー特別措置法の 5 本を束ねた「束ね法案」として一括採決される。運転期間について、電気事業法の中に「発電用原子炉の運転期間」という条項を新設し強力に位置づけると同時に、原子炉等規制法の「運転の期間等」（原則 40 年、最長 60 年）が削除される。60 年超え運転が経産省の認可で強行され、原子力規制委員会は長期運転前提での「劣化の管理等」として技術的評価のみを行うことになる。また最長運転期間は示されない。法案では「電気事業法の一部を改正する」とするが全体を見ると、その中でも「原子力基本法」の改悪が大問題だ。

〇核と原発推進、原子力における「改憲」攻撃だ

原子力基本法は、1954 年ビキニ被爆直後の反核運動の爆発の中、原子力政策（核武装）推進のために、1955 年に作られた。「原子力政策を推進するに当たっての憲法ともいうべき基礎法であり、実体法としての効力を有すものではない」「総則において原子力の平和利用の目的に限られると同時に、民主、自主、公開のいわゆる三原則」（昭和 32 年原子力白書　正力松太郎）。1957 年岸伸介首相は国会で「専守防衛のためならば核兵器の保有も憲法違反ではない」と答弁。原子力基本法は「平和利用」のペテンのもと高速増殖炉建設・核燃サイクル等、核武装への下地を作ろうとしてきた。しかし、広島・長崎やビキニの被爆者、労働者人民の粘り強い反戦・反核の闘いとフクシマの闘いがこれを阻んできた。今法案は、この原発推進基本法すら根底的に覆す、核戦争・核武装へ向かっての原発推進政策の「改憲」攻撃だ。

〇原子力推進を「国の責務」に

基本法改悪案では「責務」と「施策」が細かく新設される。「国の責務」として「原子力施設が立地する地域の課題の解決に向けた取り組みを推進する責務」を明記。「基本施策」として「技術の維持及び開発。産業基盤の維持強化」「・・必要な投資を行う・・事業環境を整備するための施策」「使用済み燃料の再処理等の実施及び廃炉の推進の円滑かつ着実な実施」「最終処分に対する国民の理解促進。円滑かつ着実な実施を図るために必要な施策」を並べる。「原子力事業者の責務」には「・・防災の体制を充実強化するために必要な措置を講ずる責務」「地域の課題の解決に向けた取り組みに協力する責務」。最後に「原子炉の管理」として「政府の行う運転期間に係る規制に従わなければならない」とする。

岸田政権は運転期間延長や建て替え・新規建設へ完全に舵を切った。G7 各国は小型原子炉や次世代炉などの開発建設で協調と競争をしてゆこうとしている。世界は核戦争情勢。ＧＸ法案の国会通過を阻止しよう！

（NAZEN 東京事務局・飯塚）

原発トピックス★ 2023年3月12日～4月11日

◆子ども甲状腺がん３４５人に

福島県「県民健康調査」の検討委員会が22日に開かれ、新たに６人が甲状腺がんと診断された。これまでに県の検査によってがんと診断された子どもは302人となり、がん登録で把握された集計外の患者43人をあわせると、事故当時、福島県内に居住していた18歳以下の子どもの甲状腺がんは345人となった。新たに公表されたのは５巡目と25歳の節目健診の結果だが、いずれも、最大は５センチ近くまで腫瘍が成長していた。　（３月22日　Our Planet ＴＶ）

◆柏崎刈羽検証委トップ「解任」

３月までに「三つの検証」の報告書が出そろい、総括委でまとめる段階に入った。ところが県は、総括委員長だった名古屋大名誉教授の池内了さとる氏の任期が３月末に迫る中、更新しなかった。池内氏は「解任されると解釈した」と会見。「柏崎刈羽の安全性のほか、東電に原発を動かす適格性があるのかという運営方針を巡る対立があった」「無難な総括を求める県との間で折り合えず決裂した」と明かす。総括委は事実上の休眠状態に。（４月４日　東京）

◆１号機の原子炉土台、半周損傷

福島第一原発１号機の原子炉格納容器の内部調査で、東電は原子炉圧力容器を支える土台「ペデスタル」内部を撮影した画像を公表した。北側の土台壁面の下部約180度の範囲でコンクリートがなくなり、鉄筋がむき出しになっていることが分かった。

東電は鉄筋に大きな変形は見られないとし、可能な限りの情報を収集した上で耐震性を評価するとしている。底には溶融核燃料（デブリ）とみられる堆積物があった。

（３月31日　福島民報）

◆敦賀２号機の安全審査を再中断

日本原電敦賀原発２号機の安全審査で断層データの資料の誤りが相次いで見つかっている問題で、原子力規制委員会は審査を再び中断することを決めた。審査の申請書のうち、原子炉直下の断層に関する部分を８月末までに修正して出し直すよう行政指導する。審査は断層データの無断書き換えで約２年間中断し、昨年12月に再開して４カ月で再び中断する異例の事態。また同様の事態になれば、審査を打ち切って許可や不許可を判断する。　（４月５日　毎日）

◆汚染水放出「理解得られてない」

福島第一原発の汚染水の海洋放出計画を巡る日本原子力文化財団のアンケートで、「放出について、国民の理解は得られていない」は51・9%、「漁業を中心とした関係者の理解を得られるまでは行うべきでない」は42・3%を占め、「国民の理解は得られている」6・5%、「関係者の理解を得られなくても行うべき」5・6%を大きく上回った。「規制基準を満足すれば放出してもよい」は21・0%で、「放出すべきでない」は16・0%。(4月4日　朝日デジタル)

◆経産省、原発再稼働へ支援チーム

経済産業省は原発再稼働の促進に向け、地域の避難計画策定などを後押しする「地域支援チーム」を立ち上げたと発表した。政府は今夏以降、柏崎刈羽原発６、７号機など７基の再稼働を目指しており、地元の同意を得られるよう国が前面に立って取り組む。資源エネルギー庁や経産局の職員約100人で構成する。６日に原発立地自治体の首長ら22人のほか経産省の幹部らと「原子力政策地域会議」を立ち上げ、初会合を開いて決めた。　（４月６日　時事）

スケジュール

◆千葉◆4/29(土・休) 流すな汚染水！とめよう原発！4.29集会／13:30開演 集会後、千葉市内をデモ／千葉県弁護士会館3階講堂／お話：崎山比早子さん(3.11甲状腺がん子ども基金代表理事、医学博士）／参加費500円、高校生以下無料／主催：放射能汚染水流すな！千葉集会実行委

◆東京◆4/19(水) 原発事故から12年未だに自宅に戻れない地域・津島訴訟原告団との交流会／14:00～日比谷コンベンションホール（日比谷図書館地下1Ｆ）／①DVD上映「ふるさと津島」②放射線量測定報告。③津島の現状報告と質疑応答。／主催：千葉県原発訴訟の原告と家族を支援する会

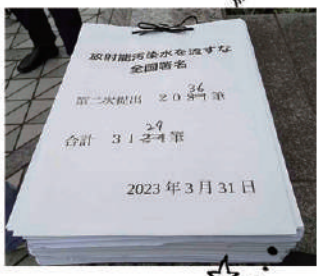
5/3(水・休) あらたな戦前にさせない！守ろう平和といのちとくらし 2023 憲法大集会／11:00～東京・有明防災公園　13:00～メインステージ　14:30～パレード／主催：平和といのち人権を！5.3憲法集会実行委員会

5/16(火) 汚染水を海に流すな！5.16 東京行動／10:00~東電本店要請行動ほか　18:00~汚染水を海に流すな！全国集会@日比谷野外音楽堂／終了後銀座デモ／共催：これ以上海を汚すな！市民会議・さようなら原発1000万人アクション実行委員会

◆広島◆5/19(金) Ｇ７サミット粉砕 5.19広島行動／10:00～米欧日首相の平和公園訪問弾劾デモ／13:00～Ｇ７サミット粉砕！全国総決起集会／集会後広島市内デモ／共催：改憲戦争阻止！大行進実行委員会、８・６ヒロシマ大行動実行委員会

放射能汚染水を海に流すな！全国署名

東電に3,858筆※ 署名提出！



署名数

国内3129筆

国外　729筆

3月31日、東電に署名提出、質問状への回答を要求し、申し入れを行いました。提出行動の最中も、「もっと声をあげていかないと！」と署名を申し出てくれる女性の姿もありました。

質問書に関しては、東電は不誠実な回答しかしていないので、さらに回答を要求しました。「『トリチウムが放出するベータ線は非常に弱く』としている根拠、国内及び海外で健康被害が確認された際に責任は東京電力にあるのかどうか」、「海洋放出について、漁業関係者の理解なしには放出をしないのか、否か、明確に答えよ。」「太平洋嶼島や韓国、中国などが放出に反対していますが、それに対する検討および説明はなされているのかどうなのか」、東電はごまかさずに、きちんと回答しろ！

◆詳細はNAZENブログで➡

【第二次署名提出分】
国内　2036筆（合計3129筆）
国外　181筆（合計729筆）
［※総計：３８５８筆］

ウクライナ戦争ただちにやめろ！
中国への侵略戦争を絶対とめよう
核戦争のための帝国主義会議
G7サミット粉砕
5.19広島行動
NO WAR! STOP THE NUCLEAR WAR SUMMIT!

【４・23杉並区議選】
反戦・反核・反原発つらぬく
ほらぐちともこを区議会へ！
汚染水安全チラシ追及議会質問
【NAZEN通信号外】配布中!!
↓↓↓

トルコ大震災カンパを！ 労働運動団体を通して送ります！

汚染水署名運動にも多大な貢献をしているトルコの労働組合・UID-DER（ヴィダル）が震災救援活動への支援を呼びかけています。全国からの熱い支援を！
UID-DERのHP;　https://en.uidder.org/

カンパの振込先
●郵便振替口座
口座番号 00120-8-763817 加入者名 ＮＡＺＥＮ
※振込の際は、「トルコカンパ」と備考欄にお書きください。※年会費の場合は「年会費○人、○団体分」と、お書きください。